

# 2017 年度春学期 日本語教育方法論演習 C シラバス

## 1 はじめに

日本語教育の方法を考える際に、私たち自身が持つ、「日本語教育はどのようなものであるか」という「日本語教育感覚」は重要です。この私たち自身の「ことばの教育の感覚」は、日々の日本語教育の目標を規定し、学習者に求める力、授業の方法や評価のあり方を決めていきます。

この15年ほどの間に、日本語教育の教育研究の潮流は非常に多様化しており、「よい」とされている「スタンダードだ」とされていることばの教育の意味、目的、方法は大きく変化してきました。これらの変化は、日本語教育だけのものではなく、世界の言語教育に共通の概念として存在しています。私たちが研究を考えていく際に、自分の前提となっている価値観を省察することが必要です。そのためには、自分の関心のある領域、あるいは自由に使える言語を飛び越えて（つまり文化を一度超えて）、異世界にある考え方を知っていくことは大きな意味があります。

そのために、この授業では Hinkel, E. (2017). *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning: Volume III* を読み、英語教育における教育の状況から考察をしていきます。すなわち、この授業の目的は、以下の3つになります。

- 1) 日本語教育の研究的視点・教育的視点を獲得する。
- 2) 特に、英語教育における研究の動向を分析し、その視点を日本語教育に活用させるとどうなるか、どういうことになるのかを検討することを通して、1) を獲得する。
- 3) 1) 2) から、大学院における日本語教育の研究アプローチ、テーマを切り取る観点とする。

## 3 評価方法

A 授業での発表	40%
B 授業内のディスカッションへの貢献・参加	30%
C レポート	30%

## 4 教員情報

南浦 涼介

連絡先 minalabo@u-gakugei.ac.jp

## 5 授業の内容

日にち	内容
第1回 4/17	オリエンテーション
第2回 4/24	課題の抽出：日本語教育の研究を分析する
第3回 5/1	2016年度の取り組みを知る：さん・さんの発表
第4回 5/8	発表とディスカッション1 担当 Chapter3: English as a Global Language
第5回 5/15	発表とディスカッション2 担当 Chapter4: English for Academic Purposes
第6回 5/22	発表とディスカッション3 担当 Chapter29: Teaching and Learning International Communication: Research in Six Approaches
第7回 5/29	発表とディスカッション4 担当 Chapter33: The Practice of Language Assessment

第 8 回 6/5	発表とディスカッション 5 担当 Chapter6: Teaching English to Young Learners
第 9 回 6/12	発表とディスカッション 6 担当 Chapter5: English for Specific Purposes
第 10 回 6/19	発表とディスカッション 7 担当 Chapter9: Curriculum Approaches in Language Teaching
第 11 回 6/26	発表とディスカッション 8 担当 Chapter1: The Sociology of Language and Learning
第 12 回 7/3	発表とディスカッション 9 担当 Chapter31: Teaching and Learning Second Language Pragmatics
第 13 回 7/10	発表とディスカッション 10 担当 Chapter14: Technology in Language Teaching and Learning
第 14 回 7/24	発表とディスカッション 11 担当 Chapter8: SLA Research and Foreign-Language Teaching
第 15 回 7/31	まとめ